

こころ、元気ですか？

こころの病と家族

こころの病に悩む人にとつて、家族は療養の支えとなる大切な存在です。それ故、家族自身もまたストレスを抱えやすいので、次のことを心掛けましょう。

責めずに、見守る…こころの病は、症状に波があり、療養が長くかかる場合があります。なかなか病状が好転しないと、心配が募りイライラしてしまうことも。けれど、

一番辛いのは病に悩む本人です。また、家族が症状に一喜一憂することは本人の混乱を招きます。ゆつくりと温かく見守りましょう。

リフレッシュする…趣味や楽しみに没頭する時間も大事にしてください。家族のこころの健康は、本人の回復の助けになります。

社会資源を活用する…医療機関、相談機関などの活用をおすすめします。病状について知りたいときに

保健予防課 227-5102

は、診察に同席することも必要です。家族会に参加したり、家族の体験談を聞くなど、他の家族の意見も大変参考になります。

保健予防課では、家族の対応の仕方や、社会資源の活用について相談を受けています。また、統合失調症やひきこもりに悩む家族へ家族教室や家族の集いなども実施しています。詳しくは、お尋ねください。

みんなで子育て⑧

子育て支援課
224-5821

トワイライトステイ事業

「仕事で残業しなければならなくなつたけど、保育園や学童保育室に預けている子どもはどうしよう…。子どもだけでお留守番させておけないし、頼れる親族も近くにいないし…」といったことはありませんか。近年、就業形態の多様化や核家族化に伴い、保護者の方が仕事をはじめとしたさまざまな理由で平日夜間に不在になり、子育てとの両立に苦労する場面も多いのではないのでしょうか。

そんな時のために、市では保護者の方が安心して就労と子育てができる環境づくりへの支援の一環としてこの事業を実施しています。対象は市内在住の3歳から小学3年生までの子どもで、利用時間は午後5時～9時30分です（保護者の方は午後10時まで



に施設に迎えに来てください。事前に子育て支援課で利用登録が必要ですが、一度登録すれば、あとは月ごと、もしくは利用の都度、あらかじめ申し込みをすれば預けられます。市内の保育園や学童保育室などに通っている子どもであれば、迎えに行くこともできます（要相談）。また、預かった子どもに、夕食を用意することも可能です。随時、施設見学も行っていきます。詳しくは、同課または実施施設にお尋ねください。

実施施設：ひまわりルーム（笠幡4904・埼玉育

児院内） 298-4251

利用者負担：児童1人当たり1日1500円（課税

状況により減額あり）と施設への実費500円

定員：1日原則5人程度

川越まつり会館 225-2727

川越まつり会館囃子実演予定

日程	囃子連名
1月	13日(日) 岸町囃子連
	14日(祝) 小中居囃子保存会
	20日(日) 砂囃子保存会
	27日(日) 小室囃子連
2月	3日(日) 住吉囃子連
	10日(日) 竹生会
	11日(祝) 北山田囃子保存会

* 午後1時30分・2時30分の2回行います(各20分)。要入館料。

山車の変化

絵巻や絵馬のレプリカは川越まつり会館で見ることができます。実際に見て、今との違いを探してみたいか。また、川越まつり公式サイトでも紹介しています。歴史を知るとまつりがいっそう味わい深いものになりますね。

知って なるほど 川越まつり

慶安元年(1648)、時の川越藩主・松平信綱が氷川神社に神輿などを寄進したことに始まる川越まつり。元禄11年(1698)に初めて踊り屋台が登場したのをきっかけに、各町内が趣向を凝らしてまつりに参加するようになりました。文政9年(1826)の「川越氷川祭礼絵巻」には、担ぐものから車で引くものなどさまざまな形の山車が描かれています。天保15年(1844)の「川越氷川祭礼絵馬」では、山車の形が一本柱に統一され、人形と囃子が山車に乗る現代に近いものになってきます。今の川越まつりで見られるような二重鉾四ツ車の山車は明治初期に確立され、その後、囃子台に唐破風をつけたり、回り舞台にしたりする山車が多くなりました。